

ICT活用授業研究会の振り返り

第4学年 総合的な学習の時間（情報モラル）

「4A体育新聞を発信しよう！

～ちょっと待った！それでいいの？方法は～」

授業者：則藤一起

本実践の主張点

4A体育新聞をつくって発信する際、内容や構成について話し合うことで、他者との感覚の違いを知り、自分や他者の情報を大切にしようとするだろう。

1. 授業づくりの「しかけ」と子どもの自己調整

本時における授業づくりの「しかけ」

①「写真を載せられて嫌な思いをする人はいないか」と尋ねることで、自分と他者の思いの違いに気付かせる。

②アップの写真には様々な情報が含まれていることを知り、簡単に他者に送らないことを考えさせる。

①情報モラルの授業を行う上で、「相手を大切に
する態度」は外せない内容である。本校の赤門に
掲示する新聞であり、誰の目にも触れる情報であ
るので、誰かが嫌だと思ふ写真は使うべきではな
い。写真を選ぶ際、「かっこよかったから」「上手
だったから」「みんなで楽しそうだったから」と
予想通りの意見が出たので、写真に写っている子
どもに「嫌じゃない？」と尋ねた。しかし反応は
「いいよ。」であった。そこでクラス全体に尋ね
ると、9人の子どもが「アップで写るのは嫌だ」
に手を挙げた。理由は、

- ・目立つし、あの子写ってたなってなるから
- ・水泳で呼吸している時やったら、やばい顔にな
っているから
- ・年長さんとかやったら、そこしか見てくれやん
くて目立つから

などであった。そこから話し合いは、自然と「誰
も見ることが出来る」という流れになり、「見
られてもよい」と「世界中にばらまかれているの
と同じ」という意見が出た。「見られてもよい」
と発言したかずなりさんも「俳優さんとか芸能人
やったら覚悟があるから出演されてるけど、ぼく
らは、そんな仕事をしているわけじゃないから、
いやって言う人の方が多いと思う。」と、反対の
意見のことも考えられた。また、まさきさんから
は「拡散」という言葉も出て、知らぬ間に撮られ
て広がる可能性があることも話題になった。

かずなり：世界中に、チラシに変顔でばらまかれたら
嫌やけど、世界中にばらまかれるわけじゃないか
ら。岡山幼稚園の子とか、通った人に見られるだ
けやから、ぼくは載せられてもいい。

まさき：実質、世界中ばらまかれてるってこと。色んな
人が見るから、世界中の人は見やんけど、世界
中にばらまかれてるってことじゃない？

教師：（スマホのことかと思い、スマホを見せる）

数人：お～～～。

ゆい：写真に撮って、SNSにあげるとか。

まさき：それもあるかもしれないけど、普通に通った人
も見れるということは、世界中にばらまかれてい
るってことと同じかな。

かずなり：スマホとかカメラとか、世界中ネットとかで、
「ポチッ」であがるから。俳優さんとか芸能人
とかやったら、覚悟があるから出演されてるけど、
ぼくらは、そんな仕事してるわけじゃないから、い
やって言う人の方が多いと思う。

きょうこ：みんな確認してるから。

じゅん：個人情報写ってないから大丈夫でしょ。

まさき：散歩する人は、大丈夫かな。おじいちゃん、お
ばあちゃんは大丈夫。こういうのは、あげない
と思う。楽しいなって見てくれるだけ。拡散するこ
とはないと思う。附属小学校、いい小学校やでっ
て、お母さんが他のお母さんに伝えるために使
われる時があるかもしれやんけど、大丈夫やと
思う。

かずなり:紙に、よっぽどいややったら『撮らないでください』って書くと思ったけど、さすがにお母さんやったら、『うちの子載ってる』って、カシャッと撮りたいと思うから。『絶対に撮らないでください』って言ったら、悪い目的じゃない人が撮れないから複雑。だから『撮らないでください』って書けないな。

教師:結局、このままでいっても大丈夫そう?よかったな。いややなって言う人の写真を選んでなくて。



その後のグループでの話し合いでは、「許可をとる」という意見が多かった。事前に、選ぶ段階で許可をとりに行っていたという人も何人かいたようであった。すごく意識が高いことである。

「どうして許可をとったの?」と尋ねられれば、子どもの言葉から「相手を大切にする」ことになげられていけたと考える。また、1学期に国語科の「アップとルーズで伝える」を学習しているので、「ルーズの写真なら、(個人が)分かりにくくていいのではないか」というグループもあった。

②先に述べた、「ばらまかれる」と言った場面でのことであるが、スマホで撮るとアップが容易にできる。しかし、まさきさんはその意図で発言したのではないと言ったので、その時は取り上げず最後に取り上げることにした。ロイロノートで簡単に情報のやり取りができることである。写り込んでしまった人・情報があるかもしれないことを、映像づくりでのことを例に出し、「後ろに写ってしまわないようにしていた」「名札が写ってしまって個人が特定されないように気を付けていた」ことを思い出させると、「あ〜」とつながっていた。このことが、ホームページ編での名札に敏感になる姿につながった。

振り返り

◆これまでの写真の使い方について(新聞に載せるに当たって気を付けたこと)

許可をもらっていた・もらえばよい	12
許可はもらっていなかった・考えていなかった・顔じゃないから大丈夫かな	9
楽しそうなもの・カッコいいもの・全体の写真	9

◆これから写真を使う時の注意点

許可をもらう・写っていてよいか聞く	26
ルーズにする(ルーズにしても許可を)	5

※29を超えるのは、重複した答えがあるため

情報モラル 名前()

これまでの写真の使い方についてどう思いましたか。

ぼくは顔がうつっていても別にいいけど他の子はうつっていたかイヤな子もいるからこれまでは気を付けてなかったけどこれからは気を付けてきよかをとることにします。

これから写真を使う時に注意することはどんなことですか。

これから写真を使うときはちゃんと写真を使いたいのかのきよかをもらってきよかをもらったらずいいたな〜と分かるし、きよかをもらえなかったら、この子はどうしたらためなんだな〜と分かるからです。



情報モラル 名前 ()

これまでの写真の使い方についてどう思いましたか。

写真を使うときに、「さんと
さんに聞くときに、ゴツをちゃんと使っているか
らで、二人ともOKしてくれたけど、今日先生かき
いてたら、...さんがアップはいやに手をあけ
ていたから、いつもOKしてくれる子は本当にいい
のか分からないからやめたんですけど、本当か、分
からないから、ちゃんと許可はもらはないと思
いました。

これから写真を使う時に注意することはどんなことですか。

ちゃんと許可はもらければ、もうときに本当はイ
ヤけど、OK 知らないから、そういうのは使わない
か後からさかいしなうようにするのは、おま?と思
いました。



2. ホームページでも発信しよう（1月）

「ホームページにもあげて附属の良さを発信する？」と尋ねると、「うん!」という答えが返ってきた。そこでロイロノートを使い、グループで作っていくこととした。まず、私が作ってきたものを見せた。「見本で作ってきたから許可は取ってないけれど、12月にしたときのことは考えないといけないうね。」と、誰もが嫌な思いをすることがないように思い出させた。そして、実際に附属小学校のホームページを見せ、ホームページ上では情報を拡大できることを知らせた。早速、新聞づくりに取りかかった。写真を選ぶ際、全員が席を立ち、友達のところを使ってよいかどうかを確かめに行っていた。4人でつくっていくグループ、それぞれがつくっていくグループと様々であった。そして、写真を選んでから、「名札が見えるのは大丈夫か」と、画面を思い切り拡大し、私以上に鋭い眼差しで確認する姿があった。写っている場合は、白色で上から塗りつぶしていた。

した。高飛びは、なが
ったけど、目標の高さ
たです。



3. 単元を終えて

情報モラルとは伝えず「4 A 体育新聞をつくっていこう」としたことで、楽しさが伝わる写真を選ぶことから始まった。このことにより、様々な写真があり、選ぶ際の注意点について、子どもをつぶやきから「ちょっと待って!」と立ち止まって話し合うことができた。「写真を使うときに気を付けること」という知識が教え込まれるものではなく、自分たちで考えながら気付いていくことができた。

また、今回は発信する側としてのものであったが、受け取る側として気を付けることもある。高学年の国語科でも扱われる内容であるが、低学年からでも、うわさを信じるのではなく、「それって本当?」と考えることはできる。発信する側も受け取る側も、どちらも嫌な思いをしないように、これからも情報の扱い方に敏感であり、そしてそのことを大切にする子どもを育てていきたい。